

中日新聞

発行所 中日新聞社

名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

望まれることの、一歩先へ
PRINTING SOLUTION



SAGAWA PRINTING
佐川印刷株式会社

「飛翔」400枚 名駅前前の30年

東海地方の玄関口、名古屋駅東口(桜通口)を飾った巨大モニュメント「飛翔」。駅前再整備に伴い、その威容はなくなり、基礎部分の撤去が進められている。愛知県東郷町の有元洋剛さん(69)は「名駅のぐるぐる」として長年親しまれた姿を三十年以上前の建設当時から写真に収めてきた。名古屋駅前発展の歴史と自らの人生を重ね合わせ、撤去を惜しむ。

(平木友見子)

東郷の90歳男性 写真撮影

完成前の88年から



1989年2月 市制100周年を記念して開催された世界デザイン博の横断幕が掲げられた

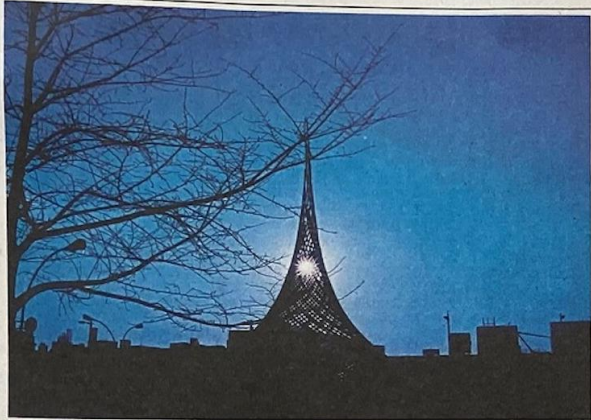


有元洋剛さん

有元さんは、駅前にあった旧大名古屋ビルヂング九階に入っていた三菱重工業中部支社の元営業マン。一九八〇年代前半、当時駅前で進められていた市営地下鉄桜通線トンネル工事の様子を会社の窓からよく見ていたこともあり、時代の変化を写そうと、駅前にレンズを向け始めた。

「飛翔」を最初に撮ったのは、八八年十二月の基礎工事の写真。ロータリーに無数の鉄筋が打たれ、土台ができて円すい状に鉄筋が組まれていくのが面白かった。時代の変化を刻む日時計のように見えた。会社の机の上に常にカメラ

飛翔 名古屋市制100周年を記念し1989年に完成した円すい形のモニュメント。高さ23メートル、直径21メートル。ステンレス管から水が噴き出る仕組みとコンピューター制御で夜景を演出する機能を備えた。デザインは全国コンペで選ばれた。愛称の「飛翔」は完成後に名古屋市が命名した。



1993年 「飛翔」の中に冬の夕日が沈むように見える



1989年3月 無数のパイプをつなぐ作業員

解体パーツ 市有地で保管

「飛翔」について名古屋市は当初、名古屋駅南西の「ささしまライブ」の名古屋高速道路高架下への移設を検討していたが、最上部や底部を一部撤去する必要が生じたため断念。解体されたパーツは、同市港区の市有地でシートに覆われ保管されている。シートがかけられる前の状態を見た近くの男性(78)は「ジェットコースターのレールか何かかと思っていた。早く移転先が見つかるといい」と話した。

名古屋市名駅ターミナル整備室の担当者は「大きすぎて、どこで再び組み立てるかも全く決まっていない」と明かす。パーツを組み上げて元の形に戻す方法の検討も必要という。

名古屋駅前での撤去作業は来年3月末に完了予定。

いずれも有元さん提供